れんごう鳥取

JTUC

2016年9月1日
No.9

発行・日本労働組合総連合会鳥取県連合会
発行人・本川博孝　編集人・米村 徹
〒680-0847　鳥取市天神町30-5
TEL(0857)26-6605・FAX(0857)26-6615
E-mail:tottori@mlaa.rengo-net.or.jp
ホームページ: http://www.rengo-tottori.net

子どもたちに核兵器も戦争もない未来を

―県内3会場で「ピースウォーク」を開催―

写真上／講師　中尾和則さん

中央ピースウォーク

全員で黙とう

連合鳥取は、連合平和ウィークに連動させた「2016連合鳥取ピースウォーク」を毎年、県内3地域において開催しています。

本年も、「子どもたちに核兵器も戦争もない未来を」をスローガンに、各地域協議会が企画し、産別・単組の役員、組合員とご家族、推薦議員、鳥取退職者連合のみなさんにご参加いただき、広く県民に「平和」を訴えるとともに、「平和の尊さ」について学習を深めました。

■中央(中部)ピースウォーク
〔8月2日(火)参加者101人〕

《平和行進》

暑さが一段落した夕方とはいえ、参加者は大粒の汗をかきながら、倉吉体育文化会館駐車場を起点にJR倉吉駅前まで、「核兵器を廃絶しろ！」「核実験をやめろ！」「沖縄米軍基地を整理縮小しろ！」と地域へ平和をアピールしながら行進を行いました。

《平和学習・講演》

その後行った「エキパル倉吉」での「平和学習」では、まず、戦争犠牲者に対する黙とうを行い、主催者の連合鳥取本川博孝会長が「原爆に苦しんだ広島や長崎、過大な米軍基地を押し付けられ『怒り』『悲しみ』『恐怖』の中で叫ぶ沖縄。住むところも、抱える課題も違う人間同士がつながり、この運動を将来へつなげたい。」とあいさつをしました。

今年の学習会は、鳥取地球人クラブ代表の中尾和則さんを講師に迎え、「紛争地域で感じた平和への思い」と題し、約40分の講演をしていただきました。中尾さんは、これまで72カ国を訪問されており、そこでの人々の生活や風習などをスライド写真を使ってリアルに紹介し、「『40年前の地雷に接触して片足が欠損された人』『ベトナム戦争で使用された枯葉剤によって戦後に産まれた奇形を持った子ども達』など、時間の経過があっても戦争の被害は残る。」と訴えられました。

■東部地域ピースウォーク
〔7月31日(日)参加者150人〕

《平和学習》行進は雨で中止

東部地協は、講師にフリーライターの屋良朝博さんを迎え、講演「それってどうなの？沖縄の基地の話。」を実施しました。

「最近のマスコミでは沖縄の基地問題について不正確な情報が氾濫し、議論をするにも共通の土台がなく、感情論になって答えがでない。FACTがどこにあるかを知ってもらった上で判断してもらいたい。」と講演されました。参加者からは「改めて基地問題の難しさがわかると同時に身近な問題だと考えさせられた。」という感想がありました。

最後に参加者全員で、平和への祈りを込めた「折鶴」作成を実施しました。

■西部地域ピースウォーク
〔8月3日(水)参加者約400人〕

《平和行進&平和学習》

市内をデモ行進した後、米子市文化ホールで、終戦間際に大山町で起きた「大山口列車空襲」の紙芝居「鉄路のかなたへ(大山口列車空襲被災者の会・金田吉人会長・制作)」を観賞し、子どもたちを含めた参加者は平和への意識を新たにするとともに、臨場感あふれる語り口に聞き入りました。また、「おとなになれなかった弟たちに…」の朗読では、当時を瞑想し、会場からすすり泣く声も聞こえました。

東部地協ピースウォーク

あいさつする山根議長

講師／屋良朝博さん

西部地協ピースウォーク

あいさつする
金田吉人会長

紙芝居より

連合鳥取2017年度政策・制度要求(鳥取県への要請事項)決定

―「第9回執行委員会(2016.8.25開催)」で決定した「要請事項」は別紙をご参照ください―

■平和特集■　ーフォトニュースー

平和行動in沖縄　6月23日(木) ー24日(金)／桑村執行委員他合計4人参加

平和集会であいさつする
逢見連合事務局長

ピースフィールドワーク
(チビチリガマ)

「在日米軍基地の整理･縮小」、「日米地位協定の抜本的見直し」を求める集会･デモに参加

平和行動in広島　8月5日(金) ー6日(土)／本川会長他合計21人参加

連合広島役員のガイドによる
ピース･ウォーク(平和公園内)

組合員のみなさんに
折っていただいた折り鶴を献納

平和集会であいさつする
神津連合会長

鳥取市水道局の「災害用ボトル水」を献水(原爆ドーム前)

連合・連合中国ブロック第10回竹島の領土確立を求める集いin松江　8月26日(金)／本川会長他合計5人参加 (全体で130人)

島根県からの報告と基調講演

島根県竹島資料室にて

平和行動in長崎　8月8日(月) ー9日(火)／佐貫副事務局長他合計6人参加

被爆71年「連合 2016 平和ナガサキ集会」

連合長崎青年委員会のガイドによる「ピース･ウォーク」に参加

ご存知ですか？「平和」について③

連合のゆるキャラ　ユニオニオン

冊子「それってどうなの?沖縄の基地の話。」からの提供も3回目。
編集メンバーの屋良さんは、東部地域ピースウォークの講師として来鳥されたよ。直接、話を聞いたみなさんはどのように感じられたかな?

これってどうなの？　辺野古新基地建設は、日本政府ではなく米国の強い要望である？？？

日米安保条約は日本が米軍の駐留を望み、基地を提供するとし、米国は日本の防衛義務とアジア太平洋地域の平和のために駐留することになっています。日本は受け入れ国、米国は派遣国です。受け入れ国は国内事情に基づき提供する基地の配置を決めます。沖縄県知事がワシントンを訪ね、基地問題を訴えるとき、米側からは「日本の国内問題だから東京へ行くべきだ」と返されます。

普天間返還交渉時に在日米大使だったウォルター･モンデール氏(元副大統領)は琉球新報のインタビューで、普天間の移設先について「われわれは沖縄とは言っていない」と述べた上で、「基地をどこに配置するのかを決めるのは日本政府でなければならない」と語りました(2015年11月9日付)。

辺野古埋め立てをめぐり、政府が沖縄県を訴えた代執行訴訟は、2016年3月に和解が成立しました。福岡高等裁判所の和解勧告は「本来あるべき姿としては、沖縄を含めオールジャパンで最善の解決策を合意して、米国に協力を求めるべきである。そうなれば米国も大幅な改革を含めて積極的に協力する契機となりうる」と書きました。これが常識的な見識であり、現状を根本から見直すよう求める勧告です。(屋良)

夏休み恒例！ 親子ものづくり教室を開催 ―連合鳥取金属部門連絡会―

連合鳥取金属部門連絡会は、7月31日（日）に第4回「親子ものづくり教室」を鳥取県職業訓練センター（ポリテクセンター鳥取）にて開催しました。今年度は「牛乳パックソーラーランタン」づくりに23組、「木工貯金箱」づくりに14組の参加をいただき、合計66人の親子とスタッフの総勢76人が参加しました。

「牛乳パックソーラーランタン」は牛乳パックを利用したランタンで、昼間ソーラーパネルで充電した電気をニッケル水素電池に充電するもので、暗くなるとＬＥＤが点灯する仕組みになっており、牛乳パックにカッターなどで切り込み、光窓を作ることで各々がデザインしたランタンを作り上げました。カッターを使った作業が少し難しかったようでしたが、親子で協力しながら楽しく作業していました。

「木工貯金箱」は木の板にキリで下穴を空けた後、デザインや色付けを行い、家の形をした貯金箱に組み立てていきました。保護者が支えている釘を子どもが金槌で打ち込んでいましたが、時折、保護者の指を誤って叩くなど、少々のハプニングはありましたが、親子で楽しい時間を過ごすことができました。

★子どもの感想より★

○むずかしいものを作ったのは、はじめてだったから、てつだってもらったところがあったけど、できたから家でも作ってみたいです。
○ちょっとむずかしかったけど、とってもたのしかったです。
○またこんどもやりたいです。

などなど‥

★保護者の感想より★

普段一緒に工作することがなかったので、とても良い機会になりました。自分が気づかない間に子ども自身で色んな工作ができるようになっていたので、成長を感じることもできました。

等など…

※連合鳥取金属部門連絡会※

ものづくり産業に携わる電機連合・JAM・自動車総連の3産別で構成。「親子ものづくり教室」は、日本のものづくり産業の発展に向けて、ものづくり産業の魅力を子どもたちに伝え、「ものづくり」の大切さや楽しさを実感してもらうことを目的に毎年開催している。

（寄稿　連合鳥取金属部門連絡会　事務局長　河村正之さん）

若い力を集結させて、青年女性活動を創りあげよう！ ―西部地協青女フォーラム　第2回定期委員会を開催―

西部地域協議会が「西部地協青年女性委員会（青女フォーラム）」を2014年3月24日に結成してから２年あまりが過ぎました。この間、メーデー大会などの西部地協の各種行事に積極的に協力、参加してきましたが、去る８月４日（木）、結成以来はじめての「定期委員会」を米子市コンベンションセンターにて40人の参加のもと開催しました。

当日は、門西慶和幹事（ＵＡゼンセン）の開会のあいさつで始まり、「今日までまさにわからないまま活動を行ってきた。やっと定期委員会開催に至った。」とこの２年間の想いを述べました。

続いて主催者を代表し、佐々木貴行委員長代行（紙パ連合）が結成から今日までの経過、そして自分が委員長代行に至った経緯を説明するとともに、「今後も青女フォーラムらしい活動を行う。」との熱いあいさつを行いました。

その後、議長に境港市職員労働組合の住田達哉代議員を選出し、活動報告、活動方針を満場一致で採択し、役員改選、委員会宣言を全員で確認しました。

最後に、佐々木貴行新委員長の団結ガンバロウで閉会しました。

今後、継承を含め、若者らしい創造に満ちた活動に期待します。

（寄稿　連合鳥取西部地協　事務局長　佐貫 馨さん）

活動方針＜骨子＞

1．組織活動の強化
組織だからこそできる活動を創造し、労働運動の活性化と強化をめざします。

2．労働運動を担う人材の育成
青年女性委員会の活動の場を、次世代を担う為の研鑽の場とします。

3．コミュニティづくりの推進
時代が変わっても、根底に流れる「楽しく交流する場」を提供します。

4．社会参加活動の推進
多様化した地域・市民ニーズに対応する、さまざまな活動を推進します。

委 員 長／佐々木貴行（紙パ連合）
副委員長／門西慶和（UAゼンセン）
　　武良ひとみ（運輸労連）
事 務 長／梶本悠介（自治労）
常任委員／8人

Information

※詳しくは、連合鳥取事務局へお問い合わせください。

第25回連合鳥取杯親睦ゴルフ大会

□日　　時　2016年10月1日(土)
受付開始／7時00分～　スタート／8時00分～
□場　　所　大山アークカントリークラブ
西伯郡伯耆町三部771-1
□募集人数　104人 [IN13組･OUT13組(26組)]
□プレー費　11,000円(各自負担でお願いします)
□参 加 費　3,000円(当日受付で徴収)
※産別を通じてご案内しています。

参加者募集中！

青年委員会／列島クリーンキャンペーン

□日　　時　2016年10月1日(土)～2日(日)※朝解散
受付／9時15分～　開会　9時30分～
□集合場所　ホテル大山しろがね
西伯郡大山町大山136-2
□内　　容　①大山登山(一木一石運動)
②夕食懇親会
□参 加 費　1人8,000円
※産別を通じてご案内しています。

昨年の様子

2016年度 鳥取県の最低賃金確定！

715円　過去最高の22円UP!
2016年10月12日(水)発効

鳥取地方最低審議会は、9月1日(木)、「鳥取県の2016年度の最低賃金(時間給)を2015年度より22円引き上げる」とした鳥取労働局への答申に対する異議申し立てについて審議し、その結果、現行の693円から**715円への引き上げが確定**しました。

◎異例の否決

労使による専門部会は、現行693円が「全国最低」の状況であることを重視し、企業側から「負担が大きい」との異論がありながらも、労働力の県外流出阻止などのためには「中央最低審議会の引上げ目安を1円上回る22円引き上げる」とした報告書を提出した。

しかし、8月10日の地方審議会で否決、差し戻された。このことは非常に異例な状況であった。その後、再協議され、最終的に8月16日、「715円」で鳥取労働局長に答申された。

◎結果、全国最低の「最低賃金」から脱却!

現在の最低賃金(693円は)高知県、宮崎県、沖縄県と並び、全国で最低だったが、今回の改定により全国最低から脱却した。

"ザ・議員"

伊藤　保　鳥取県議会議員

鳥取県議会には、公的な常任委員会や特別委員会とは別に、超党派の議員が、会費で個別の政策課題について自主的に調査研究する議員連盟(議連)が現在16結成されています。

私も、10議連に所属し活動していますが、その活動の主体は、定例議会の合間を活用して、勉強会の開催や現地調査を実施して、現状認識と課題解決に取り組んでいます。

中でも鳥取県の明日の水産業の発展を考える会(会員18人)、鳥取県の明日の畜産業の発展を考える会(会員19人)、県議会中部地区振興議員連盟(会員7人)の会長、さらには、鳥取県森林･林業活性化議員連盟(会員28人)、ジャマイカ･鳥取友好議員連盟(会員29人)の幹事長、鳥取岡山県境議連(会員14人)の鳥取県側の幹事をしていますので、これらの議連の活動企画から事業の実施で、休会中は急に気忙しくなりました。

2月3日には、明日の畜産業の発展を考える会として畜産農家や農業団体からの要望や意見を取りまとめてきた、課題を精査した中で、知事に政策要望を提出いたしました。

平井知事(左)へ議連の政策要望を手交する

勝田　鮮二　鳥取市議会議員

これから身近になる介護問題と予防に対して、先進的かつユニークな取り組みを行っている小田原市を視察しました。

①介護予防事業(コグニサイズ等)の取り組みについて
＜コグニサイズとは?＞
認知･認識を意味する　cognition(コグニション)
運動の意味　exercise(エクササイズ)
＜ポイント＞　2つの課題を同時にこなすことが大事
・ステップやウオーキングなどの軽い体操
・計算やしりとりなどの認知課題
＜成果＞コグニサイズを取り入れた教室の参加者の8割で記憶力向上
誰でも自宅や運動教室で気軽にトレーニングできる方法を冊子にして発行、そして研修会を実施し"健康寿命日本一"を目標に掲げ頑張っておられました。

②アクティブシニア応援ポイント事業について(視察)
＜概要＞市内在住の60歳以上の方が、市指定の介護保険施設などでボランティア活動をすれば、その活動に対してポイントがつき、商品に交換できるシステム。社会参加や生きがいつくりを奨励･支援されていました。

◎いずれの2件とも、認知症対策には有効的で、高齢者が無理なく簡単に取り入れることができ、商品ももらえるなど発想が凄いと感じた、本市の施策に検討していきたいと思います。

正面中央が勝田議員
福祉保健委員会視察にて(2016年4月)

てんじんこらむ

若者と話をしていると、話しの途中なのにスマートフォン(以下「スマホ」)を取り出し、操作を始める相手。「失礼な人だなぁ」と思うことがよくある▼その後、「さっき疑問に感じられていたことの答えは…」と回答をくれる。話の中で疑問に思い、その答えをスマホで調べてくれていたのだと、「失礼な人だなぁ」を撤回し、「ありがとう」と思う▼「調べますね」の一言があればなお良いのに…との思いはさておき、みなさんは「セレンディピティ」という言葉をご存じだろうか。造語らしいが、「目的に向かっている途中に、偶然の出会いからチャンスを得る」という意味である▼現代の便利な機器は、目的まで直行するので速い。それがスマートで無駄がないということだろう。しかし、それではつまらないと思ってしまうのは、現代グッズを使いこなせない引け目からか▼ともかく自分は今後も「スマート」より「セレンディピティ」精神でいこうと思う。ただ、「偶然の出会い」を偶然で終わらせない「洞察力」を持ち合わせていないと「セレンディピティ」を活かせない。ということは、どちらにしても「引け目」を感じてしまうのか…

(平世紀のち反省期)

紙
再生紙を使用しています